



スクール水着 多様化

肌覆うタイプや男女共用 子ども、保護者のニーズ反映



肌の露出を抑えたセパレート型の男女共用水着を並べた売り場＝大分市のイオンパークプレイス大分店

スクール水着が多様化している。従来の画一的な製品だけでなく、紫外線対策や体のラインが強調されるのを避けるため、袖や股下を長くして肌を覆うタイプが普及してきた。上下が分かれたセパレート型や、性別を選ばずに着られるデザインもあり、子どもや保護者のニーズに込められている。

さらセパレート型へと変化している。男女を問わず肌の露出を抑える傾向にある。教材全般を販売している大分県学校用品（大分市下郡）は、水着の上から着用する長袖のラッシュガードの注文がここ数年で増えた。

営業担当の高橋啓介さん（48）は「当初はアトピー体質の子どものや、日焼け防止のために要望があった。動きにくいのではという心配

もあったが、柔軟性のある素材に替わって定着した」と話す。
ジェンダーレスの動きに合わせて、新たな水着も誕生した。イオンパークプレイス大分店（同市公園通り西）は今年、長袖とゆとりのあるハーフパンツを組み合わせた「男女共用水着」の販売を始めた。

同店は「性別で分けられないだけでなく、肌を守ることや体のラインを隠すことなどさまざまなニーズがある」と説明する。

小学3年の息子がいる大分市の女性（36）は「紫外線は怖いので長袖を着せたい」と希望に合う商品を探していた。（佐藤光里）

大分合同新聞 2023年6月6日（火）朝刊 21面

〔問①〕 これまでの水着とくらべて、どのように形が変化したのだろうか。

.....
.....
.....
.....

〔問②〕 ここ数年で注文が増えているものは何か？

.....
.....
.....
.....

〔問③〕 他に「ジェンダーレス」の流れにあるものは何だろう。話し合ってみましょう。

.....
.....
.....
.....